

〔研究ノート〕

セクシュアリティに関する 羞恥についての心理学的研究

吉 川 茂

I 目的

生理的・生物学的な性であるセックスと、社会的・文化的な性であるジェンダーについて、近年多くの心理的・社会的問題が議論されている。例えば、公衆浴場での異性の子どもが入浴できる年齢は何歳までが妥当か、基本的には社会的規範の問題ではあるが、言い換えれば対象となる子どもの裸体を見ること、および自己の裸体を見られることに関する性的な恥・当惑の問題が基盤にあるといえよう。混浴禁止条例が都道府県ごとに定められているが、公的な年齢制限とは別に大学生の感覚としてはどのように捉えられているのであろうか。公共の場ではない自宅の風呂の場合とはどのような相違がみられるのであろうか。

また利用が女性に限定されている施設や車両に入ってもよいとされる男児(男性)の年齢は何歳までなら許容されるとみなされるのか。混浴の場合と比較すれば性的な意味合いはかなり低いと思われるが大学生はどのような判断を下すのか。

より個人的な羞恥の問題としては、自分自身の水着姿、下着姿、裸体を見られた場合、そのときに感じる恥ずかしさの程度は、相手の年齢や性別、自己との関係によってどのように異なるのか。それでは着用していない自分の水着や下着そのものだけを他者によって見られたときの恥の感情はどうであろうか。

性行為そのものではないが、性の社会的および個人的な周辺問題について大学生がもつ恥・当惑の感情を調査することを目的とする。性に関わる問題であるから性差はかなり大きいと予

想され、さらには心理的に微妙な事柄であり個人差もまたかなり大きいであろう。こうした点も含めて考えたい。

中心的な概念となる「羞恥」について少し触れておきたい。この概念について欧米の社会心理学においては、embarrassment, shame, social anxiety, shynessなどが対応すると樋口(2004)は挙げている。social anxietyとshynessが自己呈示という対人場面に限定されるのに対し、embarrassmentとshameはそれらを含むより包括的な概念とみなし得るとし、「すなわち恥とは、無意図的に引き起こされたり、あるいは自らが望んでいないにもかかわらず引き起こされる苦境や逸脱を意識した際に生じる情緒反応である」としている。またembarrassmentは照れのなものから自己嫌悪的なものまで含む包括的な概念であるとの考えを示している。

恥の発生状況について橋本・清水(1981)は、100の恥発生状況の因子分析から「自己不全感」「ぶざまな行為」「知識・能力露見」など12の状況をあげており「性」もその一つに含めている。

成田・寺崎・新浜(1990a)は、「状況別羞恥感情質問紙」を用いて恥発生状況を4つに分類している。その結果、自分の劣位性が公衆の面前で露呈した状況の「かっこ悪さ」、異性との相互作用や他者からの注視が集中する状況の「気はずかしさ」、自分の行動等について反省する状況の「自己不全感」、性的な状況の「性」を見出している。「かっこ悪さ」は「公恥」に、「気はずかしさ」は「羞恥」に、「自己不全感」は「私恥」に対応するとの考えが示されるが、「性」はそれらとは別のものとして扱われている。

さらに成田(2004)は、菅原(1992a)の恥発生

状況のクラスター分類結果をも考慮して先行研究からつぎの6つに状況類型を整理している。
 ①自らの行動等について反省する私恥状況 ②自分の劣位性が公衆の面前で露呈する公恥状況
 ③ポジティブな評価あるいは相互作用に戸惑う照れ状況 ④人前で自分に自信が持てない対人緊張状況 ⑤対人場面において自己の役割が混乱している対人困惑状況 ⑥性の顕在化が戸惑いをもたらす性的状況 これらの分類からして性的な恥は一般的な恥とは少し様相の異なるものであると考えられ、必ずしも羞恥の研究の中心的主要テーマとしての扱いは多くはなされてこなかった。よって本研究では、性に関連する内容についての羞恥の側面を調べることを目的とする。

II 方法

日本での社会的な性に関する制度や慣習についての羞恥心、個人的な裸体に関連する事項についての羞恥心を測定するために25項目からなる質問紙を作成した。

項目1から項目7までは、公衆浴場や自宅の風呂に父母と一緒に入ってもよいと思う年齢や同じ布団で寝てもよいと考える年齢、体育の時間などで同じ教室で着替えをしてもよいとする年齢の上限を尋ねた内容である。項目8から項目10までは女性専用ホテルや女性専用車両、女性用トイレを男の子(男性)が利用してもよいと許容される年齢について問う項目である。項目11と項目12では、男の子と女の子それぞれが異性への意識・興味を芽生えさせる年齢について質問している。回答は0～1歳を選択肢「0」、1～2歳を「1」、2～3歳を「2」とし、以後同様に25歳以上の「25」までを用意した。なお「6」の6～7歳は(小学1年生)、「7」の7～8歳は(小学2年生)というように学年段階の例示も付け加えた。因みに「12」12～13歳が(中学1年生)、「15」15～16歳が(高校1年生)、「18」18～19歳で(大学1年生)とした。

項目13から項目19では、自分の水着姿や裸

を同性・異性の友だちから、海・プールや公衆浴場、ヌーディスト・ビーチなどで見られたときの恥ずかしさの程度を「まったく恥ずかしくない 0・1・2・3・4・5 たいへん恥ずかしい」という6ポイント・スケールにて回答を求めた。項目20と項目21では、診療場面での異性医師に裸を見せる状況、プロ・カメラマンにヌード撮影をしてもらう状況での羞恥心を同じく6段階の選択肢から選ばせた。項目22から項目25においては、同性・異性の友だちに自分の下着姿を見られたときや所有する水着や下着そのものを見られたときの羞恥の程度の回答を求めた。

実験協力者は大阪府下の四年制私立大学の学生170名(男子80名、女子90名)である。それぞれの学年別の人数は男子：1年生3名、2年生35名、3年生32名、4年生10名、女子：1年生31名、2年生33名、3年生21名、4年生5名である。大学の講義時間内に質問紙を配布し記入終了後に回収した。

III 結果

今回の質問25項目について、「0歳」から「25歳以上」までの年齢への回答と、「まったく恥ずかしくない：0」から「たいへん恥ずかしい：5」までへの回答を男女ごとにTable 1に整理した。また各項目の男女の平均と標準偏差を求めた。小学校入学時点の6歳を一つの分割基準と考えて、その前後時期の人数が男女により異なるかどうかみるためカイ二乗検定を25項目で行った。すべて $df=1$ は共通である。

さらに25項目の男女ごとに、回答人数が6歳前後で差があるかどうかを知るために直接確率計算法を実施した。ただしこれらの結果は考察上必要なものに限って記載する。

IV 考察

各項目について単独で、あるいは関連のある複数項目を比較検討する形で考察を進める。

Table 1 性的羞恥事態に対する大学生の反応

年齢	1. 母親が男の子を連れて「女湯」に入る				2. 父親が女の子を連れて「男湯」に入る				3. 母親が男の子と自宅の風呂に入る			
	男子回答	(%)	女子回答	(%)	男子回答	(%)	女子回答	(%)	男子回答	(%)	女子回答	(%)
0歳	0	0	1	1.1	0	0	6	6.7	1	1.3	1	1.1
1歳	1	1.3	2	2.2	2	2.5	3	3.3	0	0	0	0
2歳	5	6.3	1	1.1	3	3.8	10	11.1	0	0	0	0
3歳	8	10.0	7	7.8	11	13.8	8	8.9	2	2.5	1	1.1
4歳	6	7.5	19	21.1	8	10.0	18	20.0	5	6.3	4	4.4
5歳	19	23.8	28	31.1	25	31.3	24	26.7	17	21.3	10	11.1
6歳(小学1年生)	18	22.5	14	15.6	12	15.0	13	14.4	8	10.0	16	17.8
7歳(小学2年生)	6	7.5	10	11.1	5	6.3	1	1.1	11	13.8	7	7.8
8歳(小学3年生)	10	12.5	4	4.4	7	8.8	5	5.6	18	22.5	11	12.2
9歳(小学4年生)	3	3.8	2	2.2	2	2.5	2	2.2	8	10.0	18	20.0
10歳(小学5年生)	2	2.5	0	0	3	3.8			3	3.8	6	6.7
11歳(小学6年生)	2	2.5	2	2.2	2	2.5			5	6.3	11	12.2
12歳(中学1年生)									1	1.3	2	2.2
13歳(中学2年生)									0	0	1	1.1
14歳(中学3年生)									0	0	1	1.1
15歳(高校1年生)									0	0	0	0
16歳(高校2年生)									0	0	0	0
17歳(高校3年生)									0	0	0	0
18歳(大学1年生)									0	0	0	0
19歳(大学2年生)									0	0	0	0
20歳(大学3年生)									1	1.3	0	0
21歳(大学4年生)											0	0
22歳											0	0
23歳											0	0
24歳											0	0
25歳以上											1	1.1
M	5.7		5.2		5.4		4.2		7.1		8.0	
SD	2.15		1.85		2.17		2.07		2.64		3.07	

年齢	4. 父親が女の子と自宅の風呂に入る				5. 母親が男の子と同じ布団で寝る				6. 父親が女の子と同じ布団で寝る			
	男子回答	(%)	女子回答	(%)	男子回答	(%)	女子回答	(%)	男子回答	(%)	女子回答	(%)
0歳	0	0	1	1.1	0	0	0	0	0	0	1	1.1
1歳	0	0	0	0	0	0	2	2.2	0	0	0	0
2歳	1	1.3	1	1.1	0	0	0	0	0	0	1	1.1
3歳	3	3.8	3	3.3	2	2.5	1	1.1	4	5.0	1	1.1
4歳	5	6.3	6	6.7	3	3.8	2	2.2	2	2.5	2	2.2
5歳	16	20.0	13	14.4	11	13.8	2	2.2	8	10.0	4	4.4
6歳(小学1年生)	13	16.3	14	15.6	6	7.5	6	6.7	8	10.0	3	3.3
7歳(小学2年生)	10	12.5	8	8.9	5	6.3	6	6.7	7	8.8	7	7.8
8歳(小学3年生)	14	17.5	11	12.2	14	17.5	14	15.6	14	17.5	14	15.6
9歳(小学4年生)	5	6.3	14	15.6	13	16.3	9	10.0	9	11.3	10	11.1
10歳(小学5年生)	3	3.8	5	5.6	4	5.0	10	11.1	8	10.0	11	12.2
11歳(小学6年生)	5	6.3	9	10.0	14	17.5	20	22.2	11	13.8	22	24.4

12歳(中学1年生)	3	3.8	2	2.2	3	3.8	6	6.7	2	2.5	4	4.4
13歳(中学2年生)	0	0	1	1.1	1	1.3	0	0	1	1.3	0	0
14歳(中学3年生)	0	0	1	1.1	3	3.8	6	6.7	1	1.3	5	5.6
15歳(高校1年生)	0	0	0	0	0	0	2	2.2	0	0	1	1.1
16歳(高校2年生)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
17歳(高校3年生)	0	0	0	0	0	0	1	1.1	2	2.5	1	1.1
18歳(大学1年生)	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1.3	0	0
19歳(大学2年生)	1	1.3	0	0	0	0	1	1.1	1	1.3	0	0
20歳(大学3年生)	1	1.3	0	0	1	1.3	0	0	1	1.3	0	0
21歳(大学4年生)			0	0			0	0			0	0
22歳			0	0			0	0			0	0
23歳			0	0			0	0			0	0
24歳			0	0			0	0			0	0
25歳以上			1	1			2	2.2			3	3.3
M	7.2		7.5		8.5		9.8		8.7		9.8	
SD	3.02		3.23		2.95		3.85		3.50		4.00	

年齢	7. 体育の時間に男女同じ教室で着替える				8. 女性専用ホテル・女子寮に男の子が入る				9. 女性専用車両に男の子が乗車する			
	男子回答	(%)	女子回答	(%)	男子回答	(%)	女子回答	(%)	男子回答	(%)	女子回答	(%)
0歳	0	0	0	0	2	2.5	1	1.1	2	2.5	1	1.1
1歳	0	0	2	2.2	0	0	0	0	0	0	1	1.1
2歳	1	1.3	0	0	2	2.5	4	4.4	2	2.5	0	0
3歳	1	1.3	1	1.1	2	2.5	1	1.1	4	5.0	1	1.1
4歳	2	2.5	4	4.4	6	7.5	7	7.8	2	2.5	4	4.4
5歳	8	10.0	3	3.3	14	17.5	13	14.4	9	11.3	10	11.1
6歳(小学1年生)	13	16.3	13	14.4	4	5.0	13	14.4	1	1.3	7	7.8
7歳(小学2年生)	16	20.0	19	21.1	8	10.0	9	10.0	4	5.0	7	7.8
8歳(小学3年生)	18	22.5	26	28.9	17	21.3	20	22.2	14	17.5	14	15.6
9歳(小学4年生)	7	8.8	10	11.1	11	13.8	5	5.6	8	11.3	9	10.0
10歳(小学5年生)	3	3.8	1	1.1	1	1.3	4	4.4	4	5.0	1	1.1
11歳(小学6年生)	8	10.0	6	6.7	10	12.5	8	8.9	19	23.8	24	26.7
12歳(中学1年生)	1	1.3	1	1.1	2	2.5	4	4.4	5	6.3	7	7.8
13歳(中学2年生)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0
14歳(中学3年生)	1	1.3	3	3.3	0	0	1	1.1	2	2.5	3	3.3
15歳(高校1年生)	0	0	1	1.1	0	0			0	0	0	0
16歳(高校2年生)	0	0			0	0			0	0	0	0
17歳(高校3年生)	1	1.3			0	0			0	0	1	1.1
18歳(大学1年生)					1	1.3			0	0		
19歳(大学2年生)									0	0		
20歳(大学3年生)									0	0		
21歳(大学4年生)									0	0		
22歳									0	0		
23歳									0	0		
24歳									0	0		
25歳以上									4	5.0		
M	7.6		7.7		7.3		7.1		9.1		8.6	
SD	2.38		2.41		2.95		2.69		4.82		3.05	

年齢	10. 女性用トイレに男の子が入る				11. 男の子が異性を意識し興味を持ち始める				12. 女の子が異性を意識し興味を持ち始める			
	男子回答	(%)	女子回答	(%)	男子回答	(%)	女子回答	(%)	男子回答	(%)	女子回答	(%)
0歳	2	2.5	1	1.1	1	1.3	0	0	2	2.5	0	0
1歳	1	1.3	2	2.2	0	0	3	3.3	1	1.3	0	0
2歳	3	3.8	1	1.1	1	1.3	0	0	1	1.3	1	1.1
3歳	7	8.8	3	3.3	4	5.0	3	3.3	5	6.3	4	4.4
4歳	4	5.0	13	14.4	7	8.8	6	6.7	8	10.0	8	8.9
5歳	19	23.8	28	31.1	3	3.8	10	11.1	4	5.0	12	13.3
6歳(小学1年生)	12	15	15	16.7	5	7.5	15	16.7	8	10.0	16	17.8
7歳(小学2年生)	5	6.3	7	7.8	8	10.0	3	3.3	8	10.0	8	8.9
8歳(小学3年生)	17	21.3	13	14.4	6	7.5	11	12.2	7	8.8	7	7.8
9歳(小学4年生)	3	3.8	3	3.3	15	18.8	10	11.1	13	16.3	5	5.6
10歳(小学5年生)	1	1.3	1	1.1	10	12.5	15	16.7	6	7.5	15	16.7
11歳(小学6年生)	2	2.5	2	2.2	4	5.0	1	1.1	4	5.0	3	3.3
12歳(中学1年生)	1	1.3	1	1.1	13	16.3	10	11.1	11	13.8	8	8.9
13歳(中学2年生)	0	0			2	2.5	3	3.3	1	1.3	3	3.3
14歳(中学3年生)	1	1.3			1	1.3			1	1.3		
15歳(高校1年生)	0	0										
16歳(高校2年生)	0	0										
17歳(高校3年生)	0	0										
18歳(大学1年生)	0	0										
19歳(大学2年生)	1	0										
20歳(大学3年生)	0	0										
21歳(大学4年生)	0	0										
22歳	0	0										
23歳	0	0										
24歳	0	0										
25歳以上	1	1.0										
M	6.4		5.8		8.3		7.7		7.6		7.5	
SD	3.61		2.10		3.06		2.96		3.26		2.84	

選択肢	13. 犬猫など動物に自分の水着姿を見られる				14. 海プールで同性友に水着姿を見られる				15. 海プールで異性友に水着姿を見られる			
	男子回答	(%)	女子回答	(%)	男子回答	(%)	女子回答	(%)	男子回答	(%)	女子回答	(%)
0(恥ずかしくない)	69	86.3	71	78.9	56	70.0	20	22.2	35	43.8	5	5.6
1	3	3.8	10	11.1	8	10.0	14	15.6	14	17.5	6	6.7
2	1	1.3	4	4.4	8	10.0	16	17.8	16	20.0	9	10.0
3	2	2.5	3	3.3	6	7.5	24	26.7	3	3.8	22	24.4
4	3	3.8	1	1.1	0	0	13	14.4	8	10.0	23	25.6
5(恥ずかしい)	2	2.5	1	1.1	2	2.5	3	3.3	4	5.0	25	27.8
M	0.4		0.4		0.7		2.1		1.4		3.4	
SD	1.23		1.00		1.18		1.49		1.58		1.44	

選択肢	16. 犬猫など動物に自分の裸を見られる				17. 公衆浴場で同性友に自分の裸を見られる				18. 露天風呂で異性友に自分の裸を見られる			
	男子回答	(%)	女子回答	(%)	男子回答	(%)	女子回答	(%)	男子回答	(%)	女子回答	(%)
0 (恥ずかしくない)	67	83.8	66	73.3	43	53.8	15	16.7	20	25	0	0
1	4	5.0	9	10.0	16	20.0	10	11.1	7	8.8	2	2.2
2	3	3.8	8	8.9	7	8.8	15	16.7	8	10.0	3	3.3
3	2	2.5	5	5.6	7	8.8	12	13.3	10	12.5	7	7.8
4	3	3.8	0	0	5	6.3	18	20.0	20	25.0	10	11.1
5 (恥ずかしい)	1	1.3	2	2.2	2	2.5	20	22.2	15	18.8	68	75.6
M	0.4		0.6		0.7		2.8		2.6		4.5	
SD	1.09		1.10		1.18		1.78		1.89		0.94	

選択肢	19. ヌードリスト・ビーチで自分の裸を見られる				20. 診察で異性医師に自分の裸を見られる				21. プロカメラマンにヌードを撮影してもらう			
	男子回答	(%)	女子回答	(%)	男子回答	(%)	女子回答	(%)	男子回答	(%)	女子回答	(%)
0 (恥ずかしくない)	15	18.8	1	1.1	24	30.0	1	1.1	10	12.5	0	0
1	8	10.0	0	0	8	10.0	3	3.3	2	2.5	3	3.3
2	10	12.5	6	6.7	11	13.8	6	6.7	8	10.0	3	3.3
3	12	15.0	9	10.0	16	20.0	27	30.0	11	13.8	4	4.4
4	8	10.0	15	16.7	11	13.8	26	28.9	17	21.3	9	10.0
5 (恥ずかしい)	27	33.8	59	65.6	10	12.5	27	30.0	32	40.0	71	78.9
M	2.9		4.4		2.2		3.7		3.5		4.6	
SD	1.92		1.03		1.79		1.13		1.73		0.97	

選択肢	22. 海辺で同性友に自分の下着姿を見られる				23. 海辺で異性友に自分の下着姿を見られる				24. 自分の所有する水着を異性友に見られる			
	男子回答	(%)	女子回答	(%)	男子回答	(%)	女子回答	(%)	男子回答	(%)	女子回答	(%)
0 (恥ずかしくない)	52	65.0	14	15.6	30	37.5	0	0	49	61.3	17	18.9
1	11	13.8	10	11.1	10	12.5	2	2.2	12	15.0	8	8.9
2	4	5.0	17	18.9	14	17.5	3	3.3	5	6.3	16	17.8
3	8	10.0	20	22.2	8	10.0	17	18.9	10	12.5	26	28.9
4	3	3.8	23	25.6	13	16.3	23	25.6	4	5.0	10	11.1
5 (恥ずかしい)	2	2.5	6	6.7	5	6.3	45	50.0	0	0	13	14.4
M	0.8		2.5		1.7		4.2		0.85		2.5	
SD	1.35		1.53		1.7		1.08		1.27		1.64	

選択肢	25. 自分の所有する下着を異性友に見られる				26. 自分はどれくらい恥ずかしがらうと思うか			
	男子回答	(%)	女子回答	(%)	男子回答	(%)	女子回答	(%)
0 (恥ずかしくない)	37	46.3	0	0	13	16.3	2	2.2
1	13	16.3	5	5.6	10	12.5	3	3.3
2	12	15.0	8	8.9	12	15.0	10	11.1
3	2	2.5	23	25.6	17	21.3	21	23.3
4	14	17.5	21	23.3	19	23.8	29	32.2
5 (恥ずかしい)	2	2.5	33	36.7	9	11.3	25	27.8
M	1.4		3.8		2.1		3.6	
SD	1.61		1.20		1.63		1.22	

- (1) まず項目1「母親が男の子を連れて公衆浴場「女湯」に入る場合、男の子の年齢は何歳までならOKでしょうか?」について、回答年齢の平均は男子5.7歳、女子5.2歳となった。回答の分布状況から小学校入学から低学年あたりまでなら構わないとの回答結果と解釈される。公衆浴場条例の別表(第4条関係)の末尾に「(22)10歳以上の男女を混浴させないこと。ただし、市長が利用形態から風紀上支障がないと認める場合は、この限りではない。」と一応の規定はある。(10歳未満としているのは東京都はじめ13都県、最年少は6歳未満の兵庫県から最年長で12歳未満の北海道を含む8道県となっている)今回の大学生による回答でも10歳を超えたのは男女各2名だけであった。羞恥としての視点から考えると、単に年齢だけの問題ではないことは明白である。男の子は周囲の女性たちから見られることになるがまだ性的な羞恥の感情をもつ年齢ではない。一方入浴中の女性たちにすれば子どもとはいえ異性の視線に晒されることになる。個人差はあるとしても微妙であれ羞恥心を覚える場面といえる。男女の回答の平均差は0.5歳であるが、6歳を境に回答を2分し男女ごとの回答者数をカイ二乗検定で調べると、女子の方が入浴男児の年齢に対してより厳格であるという結果が得られた。 $(\chi^2 = 4.258 \quad p < .05)$ 相手が幼い男の子であってもその裸を見るよりは自身の裸を見られるほうが羞恥心につながりやすいのではないかと推測される。
- (2) つぎに項目2「父親が女の子を連れて公衆浴場「男湯」に入る場合、女の子の年齢は何歳までならOKでしょうか?」の平均は男子5.4歳、女子4.2歳と差がみられた。さきと同じく6歳を基準として男女の回答を比較したところ有意な差が認められた。 $(\chi^2 = 4.741 \quad p < .05)$ つまり女子の回答が男子と比べて6歳未満の低年齢に多く集中しているのである。男子は女の子が男性たちの視線を受けることや同時に自らが女の子に見られることを

気にかけ困惑する程度よりも、女子は女の子が入浴中に男性たちに裸を見られることのほうが問題であると捉えていると考えられる。回答者である女子自らの羞恥ではないが、男性の女性を見る目に性的な意味合いが含まれていることを意識しているためであろう。

「母親が男の子を連れて女湯」と「父親が女の子を連れて男湯」の許容年齢についての回答をカイ二乗検定で比較すると、男子では有意水準に至らず、女子では10%レベルの有意な傾向がみられた。男湯に入る女の子の年齢をより低く制限したのである。女子は女の子が男性の目に晒されることに強い懸念を抱いているといえる。

- (3) 項目3「母親が男の子と一緒に自宅の風呂に入る場合、男の子の年齢は何歳までならOKでしょうか?」については、回答平均は男子7.1歳、女子8.0歳という結果が得られた。前2項目とは異なり女子の方が高くなった。カイ二乗検定では有意差が認められた。 $(\chi^2 = 4.200 \quad p < .05)$ 公共の場ではない自宅の風呂でなら、家族だけの環境であり、相互に性的な羞恥感情をもつことはない判断されたため男女とも高い年齢回答になったのであろう。かつ回答者の女子にしてみれば、母親と男の子の二者関係であって回答者の女子には見たり見られたりという直接的な影響が及ばない場面のため小学5・6年生までは構わないとしたのではないか。男子では自らが母親と入浴することを現実的に想起して大半が小学校3・4年生までを上限と設定したと考えられる。
- (4) 項目4「父親が女の子と一緒に自宅の風呂に入る場合、女の子の年齢は何歳までならOKでしょうか?」の回答平均は、男子7.2歳、女子7.5歳であった。男女の回答に有意差はなかった。 $(\chi^2 = 0.434 \quad n.s.)$ これも自宅での家族との入浴ということで、不特定多数の男性が関わる事態ではないので、公衆浴場と比べて高い年齢までの許容となったのであろう。男の子の場合も女の子の場合ともに、男

子より女子の方が家族（母親・父親）との入浴には寛容な傾向があるのではないかと推測される。因みに混浴年齢に厳格な兵庫県でも家族風呂に限り10歳未満まで認められるようになっており、家族との場合は特別に扱われる。

異性の親との混浴がいつ終了するかについて、実際の理由やきっかけは、各家庭の入浴時間帯の事情や子どもの身体的発育状況、相互の性的羞恥心の程度、友人たち周囲の家庭の入浴情報、子ども一人で身体や髪を洗えるようになったかどうかなどさまざまな事情が考えられる。今回の結果はあくまでも心理的な問題として、大学生が妥当だと思う混浴年齢を調べたもので判断根拠はわからない。

- (5) 項目5「母親が男の子と一緒に同じ布団で寝る場合、男の子の年齢は何歳までならOKでしょうか?」についての回答平均は、男子8.5歳、女子9.8歳であった。女子の回答年齢は男子よりも1歳以上高く、カイ二乗検定でも有意差が認められた。 $(\chi^2 = 5.408, p < .05)$ なお親と子どもの性別が入れ替わった次の項目6においてもよく似た回答傾向がみられた。
- (6) 項目6「父親が女の子と一緒に同じ布団で寝る場合、女の子の年齢は何歳までならOKでしょうか?」での回答平均は、男子8.7歳、女子9.8歳であった。やはり女子の回答年齢が1歳ほど高いという結果であったが有意差はみられなかった。 $(\chi^2 = 2.036, n.s.)$ 分布からみるとだいたい小学6年生までという心理的な基準が設定されているようである。中学生までを可とする回答は急激に減少している。一般公衆浴場や自宅の風呂のようにお互いに裸で過ごす状況でなければ布団の中で接近・接触することには抵抗が少ないようである。そこに性的な意味合いを感じることはなく愛着の気持ちのほうが勝っているためであろうか。親子の自然な情愛として受けとめられているのかもしれない。
- (7) 項目7「小学校の体育の時間などで男児と

女児が同じ教室で着替えをしたら、何歳までならOKでしょうか?」の回答平均は、男子7.6歳、女子7.7歳であった。平均と分布状況からみて、およそ小学3年生が妥当な上限年齢と考えられているようである。実際の学校現場では厳格な規則のもとに対応されているかどうかは不明であるが、回答者それぞれの過去の体験を想起しての回答であったのではないかと推測される。ただし1歳から5歳という回答は保育所の時期と理解してよいのか、誤解によるものか判断しがたい。なお、男女の回答年齢に有意差はなかった。 $(\chi^2 = 0.569, n.s.)$

- (8) 項目8「女性専用ホテルや女子寮に入ってもよい男の子(男性)は何歳まででしょうか?」についての回答平均は、男子7.3歳、女子7.1歳であった。小学校中学年あたりまでが妥当であると捉えられている。現実には起りそうにない事態であるが、女性専用スペースに入られることへの嫌悪・抵抗感として考えられよう。入浴事態とは異なり裸体や下着姿を見る・見られるという問題は発生しない。お互いに日常的な服装であってもプライベートな女性の領域への侵入として敬遠されるのかもしれない。この項目でも男女の回答に有意差はなかった。 $(\chi^2 = 0.260, n.s.)$
- (9) 項目9「女性専用車両に乗ってもよい男の子(男性)は何歳まででしょうか?」に関する回答平均は、男子9.1歳、女子8.6歳となった。女性専用の乗り物としてバスやタクシーなどがある国もあるが、日本では82路線(2014年2月現在)で導入されている鉄道のことである。平均では9歳(小学4年生)くらいまでとなるが、11歳(小学6年生)との回答が男女とも25%前後あり最頻値であり小学生の間は容認されるものとみることができ。

項目8および9への回答傾向から、女子大学生にあっては社会的場面で相手の男の子を男性として意識するのは小学校中学年あたりが分岐点になると推測される。女性専用車両はセクハラ被害防止が目的であるが小学校高

学年から女性がその恐れを感じているということではなく、車内での接近・接触やスカート丈、化粧直しなどに異性の目や存在を意識するようになると解釈できる。この項目でも男女間の有意差は認められなかった。 $(\chi^2 = 0.600 \text{ n.s.})$

- (10) 項目10「女性用トイレに入ってもよい男の子(男性)は何歳まででしょうか?」では回答平均は、男子6.4歳、女子5.8歳となり、有意差はなかった。 $(\chi^2 = 1.117 \text{ n.s.})$ 男女児の混浴に次いで低い年齢までしか容認されないという結果である。トイレでは入浴時のように裸になることはないが、下着をおろし身体の一部を露出し排泄行為を行うプライベートなゾーンであるだけに異性を意識させられる存在は近づけたくない心理であろうか。個室であっても、むしろ隔絶された個室であるからこそ排泄行為には裸体とはまた別種の羞恥があるのではないかと思われる。
- (11) 項目11「男の子が異性を意識したり興味を持ち始めたりするのは何歳くらいからでしょうか?」について回答平均は、男子8.3歳、女子7.7歳となり、有意差はなかった。 $(\chi^2 = 0.482 \text{ n.s.})$
- (12) 項目12「女の子が異性を意識したり興味を持ち始めたりするのは何歳くらいからでしょうか?」における回答平均は、男子7.6歳、女子7.5歳で、前の項目と同様に有意差はなかった。 $(\chi^2 = 0.0050 \text{ n.s.})$ これら2項目の結果から男女ともに7歳あたりから異性への意識や関心が高まると大学生は考えている。自分の小学校時代の体験の記憶から回答したものであろうが、いわゆる思春期よりもかなり早い段階である。思春期に出現する二次性徴で男女の身体的特徴が明瞭になるより以前に異性として相互に相手を眺め始めている。女兒の乳房の二次性徴の発現は平均9.74歳との報告(高崎, 2015)があるが、それよりも早い。ここでの異性への意識・関心は現実的な性的行為や欲求に直結するものではなく、淡い感情的なものであったり、小学校に入って教室内

や各種行事などで男女の区別が明瞭になされる機会が増えて異性認識が高められたりしたことが影響していると考えられる。

なお、異性への意識の始まりを問う項目であったが、過半数の者が体験(意識)する年齢としては男女ともに「～14歳」という報告がある。(池田, 2006) おそらく具体的な性的行為の対象として意識しあうようになるという年齢であろう。

- (13) 項目13「あなたは犬や猫などの動物に自分の水着姿を見られたら、どれくらい恥ずかしいですか?」では、回答平均は男子0.4歳、女子0.4歳であり、男女とも「まったく恥ずかしくない」に選択が集中したため有意差はない。 $(\chi^2 = 0.045 \text{ n.s.})$ 見られる相手が動物であるため、水着姿に対するスタイルの良し悪しや性的魅力を評価されることはないという認識があるため「まったく恥ずかしくない」との回答になったのであろう。動物たちはずっと裸のまま生活しており人間の裸にはなんら特別な感情や欲望をもたないという信念を大半の人間は持っている。動物に自分の水着姿を賞賛されたいと期待することもない。よって見られても平気でいられるのである。見られる人間が羞恥を感じるのは見られているという事実ではなく、見ている相手が自分を見て自分にどのような評価を下し感情や欲望をもつかを想像することから発生すると考える。

やや「恥ずかしい」の側に寄った回答が男子7名(8.8%)、女子5名(5.6%)あった。おそらく彼らは水着姿は恥ずかしいものであるという個人的で固定的な観念のもとに犬や猫の視線に過剰な意味づけをして自らの中に羞恥を作り出したのであろう。

- (14) 項目14「あなたは海やプールで同性の友だちに自分の水着姿を見られたら、どれくらい恥ずかしいですか?」について回答平均は男子0.7、女子2.1となった。男女間では明瞭な有意差がみられた。 $(\chi^2 = 29.758 \text{ p} < .001)$ 見られる相手が動物から人間(同性の友だち)

になると女子の回答結果は大きく変化した。「恥ずかしい」の側の回答が5名から40名へと増加した。各人の公的自己意識の強弱、自身の水着姿への自信の程度などが影響していると思われる。友だちからどう見られ思われているのか、自分の体型に否定的な評価がなされているのではないかと、こうした見ている相手の心中を勝手に想像して羞恥感情をもつに至るのであろう。「男女大学生の自己の身体特性に対する満足度」(栢田・牛田・永野・柴田, 1992, 1993)では、「非常に不満である: 1」から「非常に満足である: 5」までの5段階評価において、女子大学生はプロポーション(体の均整)、体型、太ももの太さ、腹部の出具合いなど1, 2点代の強い不満が大半を占めており、身体的な劣等性を強く意識しているといえる。同性の友だちからの性的な視線を感じることはあまりないと思われる。動物の場合と比べれば羞恥の程度こそ高くなっているが、恥ずかしさ評価の度合いは平均よりも下である。

- (15) 項目15「あなたは海やプールで異性の友だちに自分の水着姿を見られたら、どれくらい恥ずかしいですか?」における回答平均は男子1.4, 女子3.4であった。男女間において顕著な有意差が認められた。 $(\chi^2 = 59.028 \text{ } p < .001)$ この項目では、見られる相手が「異性の友だち」である。男子では同性であれ異性であれ回答は0点代でほとんど恥ずかしくはないという結果であった。ところが女子では恥ずかしさの中央段階を超えた結果となっている。同性に見られた場合と同じく評価懸念、身体的不満(劣等意識)などに加え、男性から性的対象として眺められているはずだという感覚が羞恥を増加させていると推測される。しかしながら海水浴やプールでの水着の着用は社会的に妥当とされる自発的な行為であり、周囲の人々から見られること(あるいは見せること、見せてもよいこと)が当然の場であると認識されよう。このことにより羞恥の増加と低減が混合されたものが今回

の結果として表れたと解釈できる。

- (16) 項目16「あなたは犬や猫などの動物に自分の裸を見られたら、どれくらい恥ずかしいですか?」では回答平均は男子0.4, 女子0.6といずれも低い値の結果が得られ有意差はなかった。男女ともほとんど恥ずかしさは感じないというレベルの結果である。菅原(2000)は、羞恥の対象は「自己」であり他者の目に映った自己の姿であるとしている。そして羞恥は「人前」で生じるとし、それは他者が自己に対する「観察者」として存在するような空間であるという。動物は人ではなく自己に対する「観察者」とは考えられていないであろう。見られるという行為が恥ずかしいのではなく、見た相手がどう思っているかを想像して恥ずかしくなるのである。しかし個人レベルでみると「まったく恥ずかしくない」以外の回答(1~5)が男子で13名, 女子で24名もいる。動物に見られる・見られないに関係なく、自分が裸という特別な状態になっている自覚自体に羞恥があるためではないかと推察される。あるいは裸で無防備な自分を見られることに対する不安・緊張感が羞恥を倍加させているのかもしれない。
- (17) 項目17「あなたは公衆浴場で同性の友だちに自分の裸を見られたら、どれくらい恥ずかしいですか?」について回答平均は、男子0.7, 女子2.8となった。男女回答に有意差が認められた。 $(\chi^2 = 26.130 \text{ } p < .001)$ つぎの項目18と合わせて考察する。
- (18) 項目18「あなたは露天風呂で異性の友だちに自分の裸を見られたら、どれくらい恥ずかしいですか?」では回答平均は、男子2.6, 女子4.5であった。男女間に明確な有意差が認められた。 $(\chi^2 = 34.338 \text{ } p < .001)$ 牛田(2003)は、身体像を評価的側面より考えたLerner et al. (1973)の見解を紹介している。「男子と女子とではそれぞれの内的世界において、身体に対して異質な役割が存在」するとして、男性では自己の身体特性に対する意識が女性より低く、自己の身体より女性の身

体により強い関心を持っている。女性の体のラインや肥瘦度、ウエストやバストの膨らみといった女性の身体的魅力を決定するときの重要な特性に関心が寄せられるとしている。

身体特性への意識が高くほぼ同年齢の集団内で身体的美について比較したり競ったりしやすい年齢の女子大学生では同性の視線にも敏感であることがわかる。女性どうしであっても羞恥を感じているようである。一方男性から裸を見られた場合は、まさに男性から女性としての性的魅力あるいはその欠如を直接観察される事態であり、また自分が性的欲求の対象として眺められている事態でもあるとの自覚が羞恥を高めている。見せてはいけない、見られてはならない裸体を男性の目に晒したことに対する失態意識が羞恥を引き起こしたことも一因と考えられる。

伊藤(2000b)は、青年期の経験についてMartin(1996)による質的研究の内容を「青年期はセクシュアリティと結びついており、セクシュアリティと女性の性的な身体は、不潔、恥、タブー、危険、対象化と結びつくようになる」と紹介している。さらにTolman & Brown(2001/2004)が青年期の女子にインタビューして得た結果について『『女性身体になる』という経験は、身体の対象化(objectification)につながるという。すなわち『見られる性』として、他者の目を通して自己と自己の身体を値踏みするようになる。また、常に男子から評価されているということが、女子にとって見えないカリキュラム(invisible curriculum)になっている」と述べている。ここでの結果はこのように異性からの性的関心や欲求が自己の身体に向けられていることの自覚によるところが大きい。

「まったく恥ずかしくない」回答が男子の4分の1あったため平均は高くならなかったが、「恥ずかしい」回答(3・4・5)は半数を超えた。男子も自分の裸を女子に見られることを恥ずかしいと思う者は7割近くいるわけで、水着や下着姿と裸体の条件では羞恥の程

度は著しく異なる。菅原(1996)は、行動基準としての羞恥をあげ「人ははずかしい思いをしないように行動する存在」で「羞恥は社会適応上必要な制約をわれわれに与えている」と述べている。また菅原(2004)は「恥を感じる心、すなわち、羞恥心は一種の警報システムである。自己の様子を監視していて、何か問題を発見すれば、『恥ずかしい』という感覚を発して危機を知らせてくれる」としている。社会通念上見せるべきでない裸体や性器を見せてしまったことが社会に受け入れられない行為となったことが羞恥の源泉と解釈される。

- (19) 項目19「あなたはヌーディスト・ビーチで多くの人たちに自分の裸を見られたら、どれくらい恥ずかしいですか?」における回答平均は、男子2.9、女子4.4となった。男女の比較において明瞭な有意差が確認された。 $(\chi^2 = 34.338 \quad p < .001)$ 露天風呂での混浴と近似した結果であり、女子の「恥ずかしい」(回答3・4・5)がともに90%を超える。日本には自治体が公認したヌーディスト・ビーチはなく、大勢の異性に衆人環視の状況で裸体を見られる点では混浴の露天風呂と同じ感覚なのであろう。ヌーディスト・ビーチで裸になる割合は日本人は極度に低いといわれており、文化的な要素も強い。
- (20) 項目20「あなたは診察・治療のために異性の医師に自分の裸を見られたら、どれくらい恥ずかしいですか?」での回答平均は、男子2.2、女子3.7であった。診察・治療のためにやむなく衣服を脱がなければならない必然的な状況はあるであろう。男女間で有意差が認められている。 $(\chi^2 = 35.887 \quad p < .001)$ 医療行為のため近接した距離で裸を見せなければならない事態である。しかしそれも当然必要なこととして意図的に納得して裸になっているためか、あるいは相手が特定の医師一人に限定されるためか、混浴やヌーディスト・ビーチの事態と比べれば羞恥はかなり低くなっている。羞恥心を感じないのではなく、

感じつつも必要なこと当然のこととして医療行為を受け入れている可能性が高い。

- (21) 項目 21「あなたはプロ・カメラマンに自分のヌード写真を撮影してもらおうとしたら、どれくらい恥ずかしいですか?」についての回答平均は、男子 3.5、女子 4.6 となった。女子回答での最高値を示し、単純に裸を見られるより恥ずかしいという結果である。写真または画像データとして記録に残り長期間にわたり繰り返し不特定多数に見られ続ける。しかし自分にはその状況をコントロールできない、つまり実際の裸体ならばその場から逃れたり隠したりできるが、自分の裸体が自分とは離れたところで存在し続ける。

ヌード写真として鑑賞・批評に堪えられるか自信がない。ヌードモデルと比較されてけなされるかもしれない。男性の性的関心の的にされるかもしれない。こうした意識や想像が極度に高い羞恥につながったと考えられる。

橋本・清水(1981)は、36の羞恥感情状況について因子分析した結果12の因子を抽出したがその第1因子を「性因子」と命名している。「一般に性は、公の場ではあらわにされず、プライベートなものとしてきたが、この性的羞恥は社会的場面に露呈した時に生ずる羞恥感情である」との解説が付されている。プロ・カメラマンによる撮影となると偶発的に一瞬あるいは短時間注視されるのとは異なり、計画的に長時間、複数回の撮影となり写真として多くの人々に見られるという意味で社会的に公にされるともいえる。これだけ明確に裸体が「公開・固定化」されることは強烈な羞恥と感じられて当然である。

- (22) 項目 22「あなたは海辺やプールサイドで同性の友だちに自分の下着姿(女性ならブラとショーツ姿、男性ならパンツ姿)を見られたら、どれくらい恥ずかしいですか?」において回答平均は、男子 0.8、女子 2.5 であった。女子の平均をみれば、少し恥ずかしい程度であるが、分布をみると恥ずかしさの段階(0～

5)の4と回答した女子が25.6%、3と回答した女子が22.2%、2回答が18.9%と最多回答の上位3つを占めている。(0回答は15.6%)同性であっても自分の下着姿を見られるのはかなり恥ずかしいと感じている者の多いことがわかる。同性に水着姿を見られる場合(平均2.1)より高い平均ではあったが有意差には至らなかった。 $(\chi^2 = 1.800 \text{ n.s.})$

- (23) 項目 23「あなたは海辺やプールサイドで異性の友だちに自分の下着姿(女性ならブラとショーツ姿、男性ならパンツ姿)を見られたら、どれくらい恥ずかしいですか?」への回答平均は、男子 1.7、女子 4.2 であった。男子の場合デザインされたカラフルなトランクスのようなものであれば下着姿も短パン姿も外見上は大差ない。本人の意識として下着を見られていると思うかどうかで羞恥の程度が変わってくるのであろう。女子の場合には平均が4.2とかなり高い羞恥を示した。水着姿のときの平均が3.4であるのと比較すると有意な差が認められた。 $(\chi^2 = 10.452 \text{ } p < .01)$ ブラとショーツの下着姿とビキニのような水着姿を比べても肌の露出部分にそれほどの違いはないはずである。しかし羞恥の差は大きかったのである。この理由として考えられることは、水着はいわばアウトナー的な服装として外部から見られることを前提としたものである。それを着用する本人もそのことを承知で自らの意思で身に着けている。菅原(2010)は、海水浴やプールでの水着姿は「性的」なものでなく水遊びという目的の共通理解があるとし、こうした肌の露出は医療現場や温泉などと同様であると述べている。さらにミニ・スカートで脚が見えるのは想定内つまり意図したことであるが、下着が見えるのは想定外で不本意なことであるとし、羞恥の原因をこのように説明している。一方下着はアウトナーではなくさらに外側にそれを覆い隠すシャツやスカート等の衣服を着用するのが通例である。意図的に下着の一部を見せるファッションもあるが、通常は見られないはずのも

のであり、裸体を隠す目的の下着には「性的」な意味が付与されている。肌や体型の露出に違いがなくても、そこに「性的」意味がどれくらい関わるか、見出すかで羞恥の程度が決まってくるように思われる。日常の社会生活の中で見せては(見られては)いけないとされるものを見せて(見られて)しまったという意識が羞恥の感情を引き起こしたとも解釈される。

24) 項目24「あなたは自分の持っている水着を異性の友だちに見られたら、どれくらい恥ずかしいですか?」では回答平均は、男子0.85, 女子2.5となった。

25) 項目25「あなたは自分の持っている下着(女性ならブラとショーツ, 男性ならパンツ)を異性の友だちに見られたら、どれくらい恥ずかしいですか?」について回答平均は、男子1.4, 女子3.8であった。これら2項目はさきの項目23を補うためのもので、着用していない状態のモノとしての水着と下着を異性に見られたときの羞恥を比較できる。男子では水着より下着の羞恥が高いがいずれも羞恥の程度はそれほど高くない。ところが女子では下着そのものを見られたときの羞恥は水着そのものときより有意に高い結果となった。 $(\chi^2 = 20.741 \quad p < .001)$ 自分の肌や体型の露出とは無関係に水着, 下着を異性に見られることは恥ずかしく, 下着のほうがずっと恥ずかしく感じられることが明らかになった。女性の胸と腰を覆う布であっても水着と下着のもつ個人的意識あるいは社会・文化的な意味づけの相違で羞恥感情に差が出たのである。

さて、ショーツ(パンツ)が羞恥の対象となった歴史的経緯をごく簡略に井上(2018)の「パンツが見える－羞恥心の現代史－」をもとに辿りたい。「1930年代後半からは、パンツをはく習慣が一般化していった。これで、女たちの局部は、外部の視線から遮断されるようになる。かくされることが常態となったのだ」「彼女たちは、陰部の露出がはずかしくて、パンツをはきだしたのではない。陰部を

かくすパンツが、それまでにはないはずかしさを、学習させたのである」菅原(2010)も、恥ずかしいから衣服を着たのではなく、衣服を着たから恥ずかしいのである。恥ずかしいのは「裸体」ではなく「脱衣」であるとして、身体を布で覆い隠したことでその意味が変化したと述べている。そのパンツが恥ずかしくなったいきさつを井上はこう記している。女性の洋装が日本の都市生活にとけこみ出したのは1930年代後半からで、乱暴な脚さばきの可能な活動的の服装と認識されていた。初めの頃は洋装下着についての知識や作法が浸透しておらずパンツを見せないようにふるまう作法の存在は知られていなかった。脚をひらきズロースをのぞかせるのは行儀が悪いとの声もあったが、女たちがパンツの見えることを恥ずかしがるようになったのはようやく1950年代後半になってのことである。ブラジャーについては中野(2016)が「裸はいつから恥ずかしくなったか『裸体』の日本近代史」の中でつぎのように述べている。1929年頃、日本でブラジャーとコルセットの製造が開始されたが、パンツすら一般に普及していない時期で「そもそも日本人にとって人間の胸部は下半身以上に羞恥心の対象外であった」という。そしてブラジャーをつけだした後に女性は胸部により強い羞恥心を抱くようになったという。隠すことで羞恥が発生し、隠しているモノも羞恥の対象として汎化されてきたのである。

何がどの程度に羞恥と受け止められるかは社会・文化の動向に大きく影響される性格をもつものである。成田(1994)は過去の684にも及ぶ膨大な心理学分野の「羞恥」研究の情報データベースより研究そのものをクラスターに分類することを試み、「現段階においては、羞恥に代表される複雑な感情については一義的な定義を導入するよりもむしろ、羞恥という現象を様々な方法で克明に記述することに意味があるのではないだろうか」とまとめている。「羞恥」は一つの言葉であるが多

面的な側面をもち包括的に扱うことが困難なようである。また時代の変遷による意味・強調・価値の変化も起こってくるであろう。本稿では羞恥のうちの大学生の性に関する羞恥の一側面を扱ったにすぎないが、小さな結果の集積が必要ということである。裸体は見られるだけでなく、見ても恥ずかしさを覚える。あるいはバストやヒップのサイズを尋ねられただけでも羞恥が湧きおこる。恋愛での告白や密かな恋愛感情を悟られることも恥ずかしい。女性なら着衣の上からじっとりと見つめられても恥ずかしく感じるであろう。研究分野は際限なく広がるようである。今後のテーマとしてはLGBTに関連した羞恥感情を取り上げたいと考えている。対社会、対近親者、対恋愛相手、そして対自分自身とそれぞれに独自の羞恥あるいは困惑が生じているのではないだろうか。

参考文献

- 池田政子 2006 セクシュアリティとジェンダー 福富 護(編) ジェンダー心理学 朝倉書店
- 伊藤裕子 2016 青年期へのジェンダーからの接近 田島信元・岩立志津夫・長崎 勤(編) 新・発達心理学ハンドブック 福村出版
- 井上章一 2018 パンツが見える 羞恥心の現代史 新潮社
- 押見輝男 1992 自分を見つめる自分-自己フォーカスの社会心理学- サイエンス社
- 菅原健介 1996 恥じらう 松井 豊(編) 対人心理学の最前線 サイエンス社
- 菅原健介 2000 ヒトはなぜ恥ずかしがるのか-羞恥と自己イメージの社会心理学- サイエンス社
- 高木 修・神山 進(監訳) 1997 被服と身体装飾の社会心理学 (Kaiser, S. B. The social psychology of clothing and adornment) 北大路書房
- 牛田聡子 2003 被服による着装感情と自己の変容 高木 修(監修) 大坊郁夫・神山 進(編集) 被服と化粧の社会心理学 北大路書房
- 永房典之・樋口匡貴 2004「恥の文化」はどこへ行くのか? 菅原健介(編著) ひとの目に映る自己 金子書房
- 中野 明 2016 裸はいつから恥ずかしくなったか 筑摩書房
- 成田健一 1994 データベースを用いた「羞恥」研究の分類 磯 博行・杉岡幸三(編) 情動・学習・脳 二瓶社
- 日本社会学会 社会学事典刊行委員会 2018 社会学事典 丸善出版
- 日本生理人類学会(編) 2015 人間科学の百科事典 丸善出版
- 橋本恵以子・清水哲郎 1981 羞恥感情の研究(2) -羞恥感情構造の因子分析- 聖母女学院短期大学研究紀要10 88-93.
- 樋口匡貴 2004 恥の発生-対処過程に関する社会心理学的研究 北大路書房

(2019年7月12日掲載決定)